



チャンギ刑務所の監房扉



CHANGI CHAPEL AND MUSEUM



チャンギ要塞

ミュージアムショップ

営業時間:午前9:30~午後5:30(火曜日から日曜日)
定休日:月曜日(祝祭日を除く)
NHB_museumlabel@nhb.gov.sg

チャンギ・チャペル&博物館の出版物や、コレクションにちなんだ特別デザインのグッズをお土産にいかがでしょうか?当店で買い物をしていただくことで、当博物館や展示の支援につながります。



ご支援のお願い

日本占領時代にチャンギ刑務所に抑留されていた捕虜や民間人の物語を次の世代に受け継ぐことができるよう、ぜひチャンギ・チャペル&博物館に寄付をお願いいたします。お寄せいただいた寄付は、当博物館の物語が、困難な時代にあってもたくましく生きていける勇気を未来の世代に与えてくれることを願い、収蔵品の保存と展示に活用させていただきます。寄付をするには、QRコードをスキャンするか、お使いのモバイル・バンキング・アプリにログインし、UEN番号T08GB0036BNHFを入力してください(PayNow)。



- ステップ1: モバイル・バンキング・アプリにログインする
- ステップ2: モバイル・バンキング・アプリでPayNowのQRコードを読み取る
- ステップ3: 金額を入力しする。参照先にCCMを入力し、送金を確認する

ご利用案内

開館時間

午前9:30~午後5:30(火曜日から日曜日)
祝日を除く月曜日は休館
入館は午後5時まで

ガイド付きツアー

無料のガイド付きツアーをご用意しております。(安全対策や空き状況によりご案内が出来ない場合もございます。)詳しくは、ホームページにてご確認ください。

お問い合わせ

Changi_Museum@nhb.gov.sg

オンラインコンテンツもご覧ください!

- www.changichapelmuseum.gov.sg
- changichapelmuseum
- changichapelmuseum

管理者:



提供:



チャンギ・チャペル&博物館

チャンギ・チャペル&博物館では、日本占領下でチャンギ刑務所に収容された兵士や市民の物語を紹介しています。チャンギ・チャペル&博物館は、シンガポール国立博物館によって運営されており2021年5月には改修工事を経てリニューアルオープンしました。新しくなった博物館では、元収容者のご家族から伺ったお話や提供いただいた遺品をはじめ、新しいコンテンツや当時の品々を、元収容者の視点から描いたストーリー仕立てで展示しています。当博物館は、過去の出来事を記憶に残し、振り返ることができる場として、収容者が体験した苦しみとともに、彼らの勇気や逆境に打ち勝つ力についてもお伝えしています。

一般向けプログラム

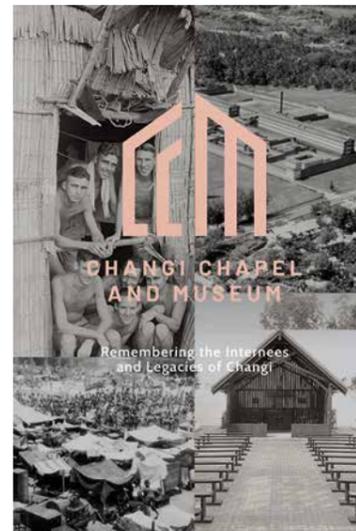
2月と9月には、第二次世界大戦中にシンガポールで起きた主な出来事を記念した、特別プログラムを開催します。学芸員による説明や講演などをお楽しみください。

学校団体の方

学校団体見学に、チャンギ・チャペル&博物館をぜひご利用ください!

当博物館では、元抑留者の物語や所持品を通して、日本軍占領下でチャンギ刑務所に収容されていた捕虜や民間人の体験を、彼らが直面した苦難、勇気と逆境に立ち向かう力とともに、子どもたちにもわかりやすく解説しています。

ご予約は、NHB_CCMBC_Programmes@nhb.gov.sg まで、ご希望の日時を添えてご連絡ください。ご来館の際には、学習の参考となる資料をご用意しております。安全対策の詳細については、ご予約の確認時にお知らせします。



博物館総合図録

博物館入口横のミュージアムショップでお求めいただけます。

チャンギ・チャペル&博物館の博物館総合図録では、館内の8つのゾーンについてご案内しております。学芸員による解説、収容者の体験談、各ゾーンの主な展示品を掲載し、日本軍がシンガポールを占領していた時代の、チャンギ刑務所での捕虜と民間人収容者の体験について、より深く学んでいただけます。



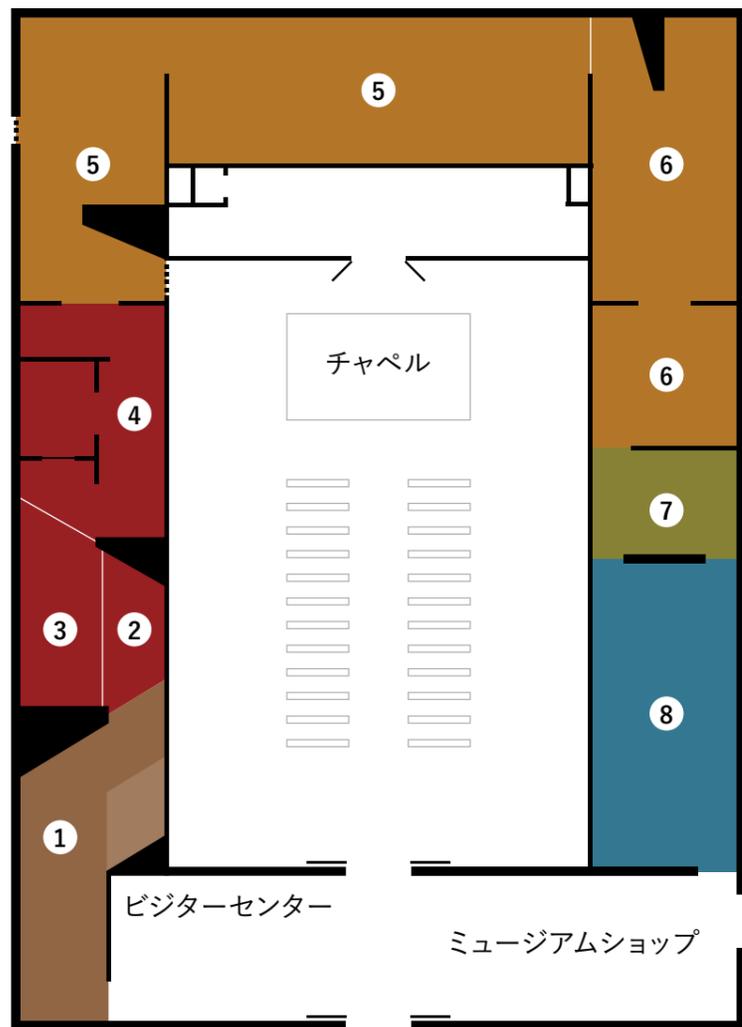
逆境で発揮された創造性



解放



遺産



トイレ

チャペル

レストラン

ビジターセンター

ミュージアムショップ

入口

降車場

- ① チャンギ要塞
- ② 要塞の崩壊
- ③ 収容者
- ④ 戦争捕虜の生活
- ⑤ 逆境を乗り越える力
- ⑥ 逆境で発揮された創造性
- ⑦ 解放
- ⑧ 遺産

はじめに

1942年、日本の占領下にあったチャンギ収容所には、何万人もの戦争捕虜と民間人が投獄されました。彼らは、その後3年半にわたって収容されることになり、生き延びるためには創造力と強靭な精神力が必要でした。当博物館は8つのゾーンに分けて展示をしており、収容者の生活、彼らが困難をどう乗り越えたのか、そして解放されるまでの過程を紹介しています。



チャンギ・チャペル

セント・ジョージ教会を模したこのチャペルは、チャンギの捕虜たちが抑留中に建てた数多くの教会のひとつです。エリック・コーディングリー牧師が始めたもので、戦争が終結するまで彼が主宰していました。二棟目の教会は、捕虜が強制労働のために泰緬鉄道へ送られた際に、カンチャナプリに建てられました。また、帰還した捕虜によってチャンギ刑務所にも二棟が再建されました。教会の形はさまざまでしたが、礼拝に参加した人たちに希望と慰めを与え続けました。

① チャンギ要塞

このゾーンでは、チャンギの歴史を紹介しています。19世紀まで、チャンギの大部分はマングローブ湿地と熱帯雨林で覆われていました。この静かでのどかな風景は、1920年代にイギリスがシンガポールを攻撃から守るために、砲台や兵舎の建設を始めたことで、変わり始めます。

② 要塞の崩壊

1941年12月の日本軍のマレー侵攻から3ヶ月も経たないうちに、シンガポールは降伏しました。このゾーンでは、シンガポールの陥落と、兵士や民間人が辿った運命に関する展示をしています。

③ 収容者

約48,000人の兵士と民間人が送られたチャンギは、巨大な収容所となりました。このセクションでは、チャンギに抑留された男性、女性、子どもたちの物語をご紹介します。

④ 戦争捕虜の生活

このゾーンでは、チャンギ刑務所の独房を忠実に再現した部屋に入り、チャンギ刑務所に収容されていた人たちの生活についてのストーリーを聞くことができます。

⑤ 逆境を乗り越える力

収容者たちは、知識や才能を最大限に利用し、創意工夫を凝らして困難を乗り越えました。このセクションでは、収容者が直面した苦難と、それを克服するための努力を垣間見ることができます。

⑥ 逆境で発揮された創造性

書く、描く、読む、作る、スポーツ、コンサートや演劇を上演するといった創造的な活動は、収容者にとって非常に重要でした。このゾーンでは、彼らがどのようにして士気を維持していたかをご紹介します。

⑦ 解放

1945年8月15日に日本が降伏したことで、3年半に及ぶ日本軍のシンガポール占領に終止符が打たれました。このゾーンでは、解放に対する収容者たちの思いと、終戦直後の出来事について紹介します。

⑧ 遺産

チャンギ刑務所が残したものは、現在も生き続けています。最終ゾーンでは、チャンギ刑務所に収容されていた人たちの名前や物語、そして彼らがいかにして収容生活を生き延びたかを伝える当時の品々を紹介しています。

チャットボットでもっと楽しめます



チャンギ・チャペル&博物館のチャットボットを使えば、専用のオーディオツアーや各言語の展示キャプションなどを、ご自身の携帯電話でお楽しみいただけます！チャンギに収容されていた兵士のストーリーを聞きながら、彼の経験をもとに展示をご覧ください。周辺にある、来館またはバーチャルでの見学が可能な第二次世界大戦関連施設の情報もご紹介しています。QRコード(左)をスキャンして、あとはチャットにおまかせください！

博物館からのお願い

当館では、お客様とスタッフの安全を第一に考えています。お客様や他の来館者の皆様の安全のために、入退館時にはSafeEntryによる記録手続きを行い、ワクチン接種証明書をご提出のうえ、館内では常にマスクを着用し、対人距離を1メートル以上に保つようお願いいたします。

すべての人に快適にお過ごしいただき、収蔵品を保護するために、次の点にご協力ください：



チャンギ・チャペル&博物館は、すべての人がアクセスしやすく、楽しい博物館となるよう努めています。バリアフリー設備とサービスについては、ビジターサービス担当者にお問い合わせください。*

* すべてのギャラリーと施設は、車椅子やベビーカーでご入場いただけます。手動の車椅子を、ビジターサービスカウンターでも用意しております(台数に限りがございます)。展示のキャプションは、当博物館の携帯電話向けプラットフォームから、英語、中国語、マレー語、タミル語の4か国語で、大きな文字でご覧いただけます。